

成人看護学慢性期・回復期実習

ナンバリング:N3-S1-E06

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 伊藤 奈央 准教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座		
対象学年	3	区分/単位数	実習/3単位
期間	後期		

・学修方針(講義概要等)

既習の専門科目で学んだ知識・技術を基に自らが学修し研鑽する態度および患者を取り巻く社会の動向を踏まえ感染予防や医療事故防止といった安全なケア環境を保持する看護専門職としての基本的態度の育成を目指す。成人期にある看護を必要とする人およびその家族と援助関係を形成すると共に、健康問題や生活環境をアセスメントし、保健、医療および福祉と連携をとりながら看護過程を展開することで問題解決のプロセスについて学修する。患者の人生や価値観を尊重し、健康生活のあり方や意思決定を支援するとともに、他職種と協働しながら患者や患者を取り巻く人々への援助を実践する。

・教育成果(アウトカム)

成人期にある対象の特性を踏まえた上で、対象の健康問題が身体的、心理的、社会的およびスピリチュアルな側面にどのように影響しているか、また今後どのような展開が考えられるかアセスメントし、日常生活を構築していくことができる援助を考察する。成人期にある人の人生や価値観を尊重した健康生活のあり方を、患者や家族と共に考えることができる。さらに、終末期患者ができる限り良好なQOLを実現できるための援助を考察できる。	
【学位授与方針と当該授業科目との関連】 本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。	
1	医療人としての全人的人間性をもち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
2	生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。
3	看護の専門職性及び看護の発展に貢献できる基礎的能力を持つ。
4	看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。
5	患者との関係性のアセスメントを行い、看護を受ける人が自ら持つ力を高められるような援助理論と方法を身につける。
6	災害等の危機的状況においてもできるかぎり平常時と同様のケアを提供できるような構想力を身につける。
7	保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。
8	コミュニティにおいて、医療職福祉職以外の人や機能と連携し、健康上の課題の解決に向けたネットワークが形成できるように看護職者の地域活動の機能を理解する。

・到達目標(SBO)

1. 慢性期・回復期における対象の身体的、心理的、社会的およびスピリチュアルの各側面から特徴を理解できる。 2. 十分な倫理的配慮のもとで、対象との援助関係を構築することができる。 3. 根拠に基づいて対象の健康上の諸問題を統合的に把握し、看護問題を見出すことができる。 4. アセスメントに基づいて看護計画を立案し、安全・安楽に考慮した援助が実践できる。 5. 看護過程を振り返り、評価することができる。 6. チーム医療における看護師の役割および多職種との連携について理解し、看護に参画できる。 7. 看護に対する自己の考えを深め、言語化することができる。
--

・実習日程

日程	各グループの実習期間は実習要項等に記載する。
担当教員	共通基盤看護学講座 伊藤 奈央 准教授 佐藤 奈美枝 准教授 小坂 未来 講師 武田 邦子 講師 畑中 るり子 助教

授業内容/到達目標	【授業内容/到達目標】 ・3週間の実習期間中、成人慢性期・回復期の患者を受け持ち、看護過程を展開できる。 ・カンファレンスとプレゼンテーションを通して、看護実践の振り返りと学びを共有できる。 ・課題レポートにおいて、自らの看護観や学びを深め記述できる。 ＊詳細は実習要項に記載する 【関連するSBO】1、2、3、4、5、6、7 【事前学修:60分/日】病態生理、症状、検査や治療、看護について、テキストや文献等で調べ、まとめる。 【事後学修:90分/日】看護過程の展開を実習記録に記述する。実習の振り返りを行い、翌日の課題を明確にする。
-----------	---

・教科書・参考書等		教:教科書	参:参考書	推:推薦図書
	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	看護学テキストNICE 成人看護学 慢性期看護 改訂第4版	鈴木久美 他	南江堂	2023
教	成人看護学① 成人看護学概論/成人保健 第7版	黒江ゆり子	メヂカルフレンド社	2021
教	ナーシング・グラフィカ 成人看護学(6) 緩和ケア 第3版	宮下光令	メディカ出版	2022

・成績評価方法
【総括的評価】 成人看護学慢性期・回復期実習評価表に示した評価基準に沿って、対象理解、看護過程の展開、実習への取り組みの3項目について、学生の行動や実習記録の記載等から総合的に評価する。評価の割合は、対象理解15%、看護過程の展開45%、実習への取り組み40%の計100%とする(実習評価表参照)。 【形成的評価】 毎日の実習記録への記載内容やカンファレンスでの発言等により実習での学びを確認する。また、教員との評価面談において、看護過程の進捗状況、実習目標の到達度について確認を行う。

・特記事項・その他
【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】 ・毎朝提出される実習記録にコメントを付して返却する。 ・毎日の学生カンファレンスに参加し助言する。 ・実習最終日に行う合同プレゼンテーションでは、学生の発表や意見交換後に、臨床指導者や教員から総評等のフィードバックを行う。 【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】 看護師(別表3):臨地実習 成人看護学 【実務家教員担当授業の有無、実務家教員の実務経験の内容及び授業との関連】 当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における看護師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的			
使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			